学校だより
さくらじま
令和8年9月4日　NO.6

【学校教育目標】
自ら学び、高めあい、
よりよく生きようとする
こどもの育成

令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果

本年４月に６年生を対象に実施された「令和８年度全国学力・学習状況調査」の結果が文部科学省から公表されました。この調査は、児童の学力と学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

本校では、調査結果を毎年、全教員で分析し、各学年で取り組むべき方向性を明らかにし積み上げてきました。その成果が出てきています。今年度も調査結果を学校・家庭・地域で共有し、さらに取組を充実させていきたいと思います。

【教科に関する調査より】

平均正答率	国語	算数
本校（全国比）	64（+3.1）	57（+0.6）
全国	60.9	56.4

平均正答率は、国語、算数ともに全国平均を上回った。昨年度からの課題であった記述式の問題の正答率は、国語では全国平均を上回った（+7.0）が、算数は達しなかった（-2.7）。

〈各教科のできているところ（○）とできていないところ（●）〉

国語

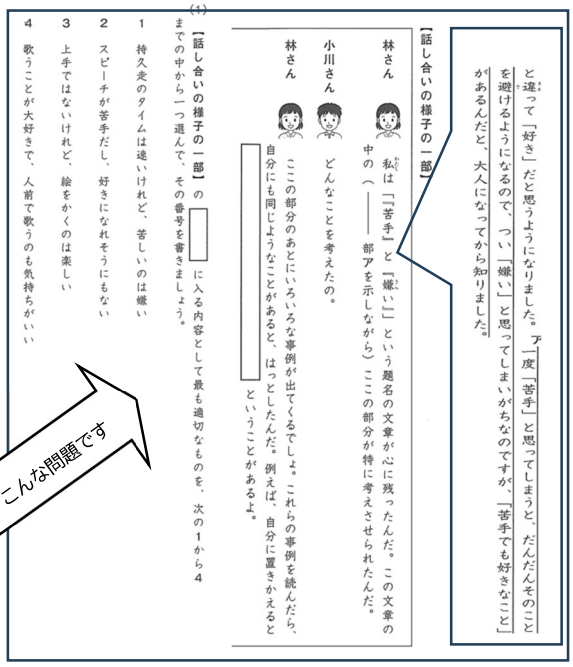
○相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。

問題番号１－（本校の正答率79.8%）
〈問題の概要〉【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する。

●目的に応じて、必要な情報を見付ける力が弱い。

問題番号３三（1）（本校の正答率50.0%）
〈問題の概要〉【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。

こんな問題です


【話し合いの様子の一部】
林さん　私は「苦手」と「嫌い」という題名の文章が心に残ったんだ。この文章の中の（　　）部アを示しながら）ここの部分が特に考えさせられたんだ。
小川さん　どんなことを考えたの。
林さん　ここの部分のあとにいろいろな事例が出てくるでしょ。これらの事例を読んだら、自分にも同じようなことがあると、はっとしたんだ。例えば、自分に置きかえると［　　］ということがあるよ。

(1)【話し合いの様子の一部】の［　　］に入る内容として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　持久走のタイムは速いけれど、苦しいのは嫌い
2　スピーチが苦手だし、好きになれそうにもない
3　上手ではないけれど、絵をかくのは楽しい
4　歌うことが大好きで、人前で歌うのも気持ちがいい

と違って「好き」だと思うようになりました。アと「苦手」と思ってしまうと、だんだんそのことを避けるようになるので、つい「嫌い」と思ってしまいがちなのですが、「苦手でも好きなこと」があるんだと、大人になってから知りました。

≪今後の取組≫　・情報を要約したり厳選したりする活動を様々な教科で取り入れる。
・鈴鹿市の取組である「読解力向上ワークシート」を用いて、全校で統一した指導を行う。

算数

○小数が十進位取り記数法のしくみで表されていることを理解している。

問題番号３(1)（本校の正答率96.6%）

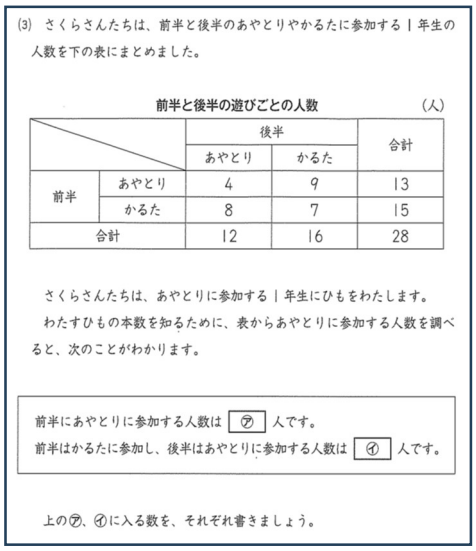
〈問題の概要〉1、5、9の３枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く。

●二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題がある。

問題番号４(3)（本校の正答率18.2%）

〈問題の概要〉二次元の表から、前半はかるた、後半はあやとりに参加する人数を書く。

こんな問題です



(3) さくらさんたちは、前半と後半のあやとりやかるたに参加する1年生の人数を下の表にまとめました。

前半と後半の遊びごとの人数 （人）

		後半		合計
		あやとり	かるた	
前半	あやとり	4	9	13
	かるた	8	7	15
合計		12	16	28

さくらさんたちは、あやとりに参加する1年生にひもをわたします。
わたすひもの本数を知るために、表からあやとりに参加する人数を調べると、次のことがわかります。

前半にあやとりに参加する人数は ㋐ 人です。
前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数は ㋑ 人です。

上の㋐、㋑に入る数を、それぞれ書きましょう。

●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する力が弱い。

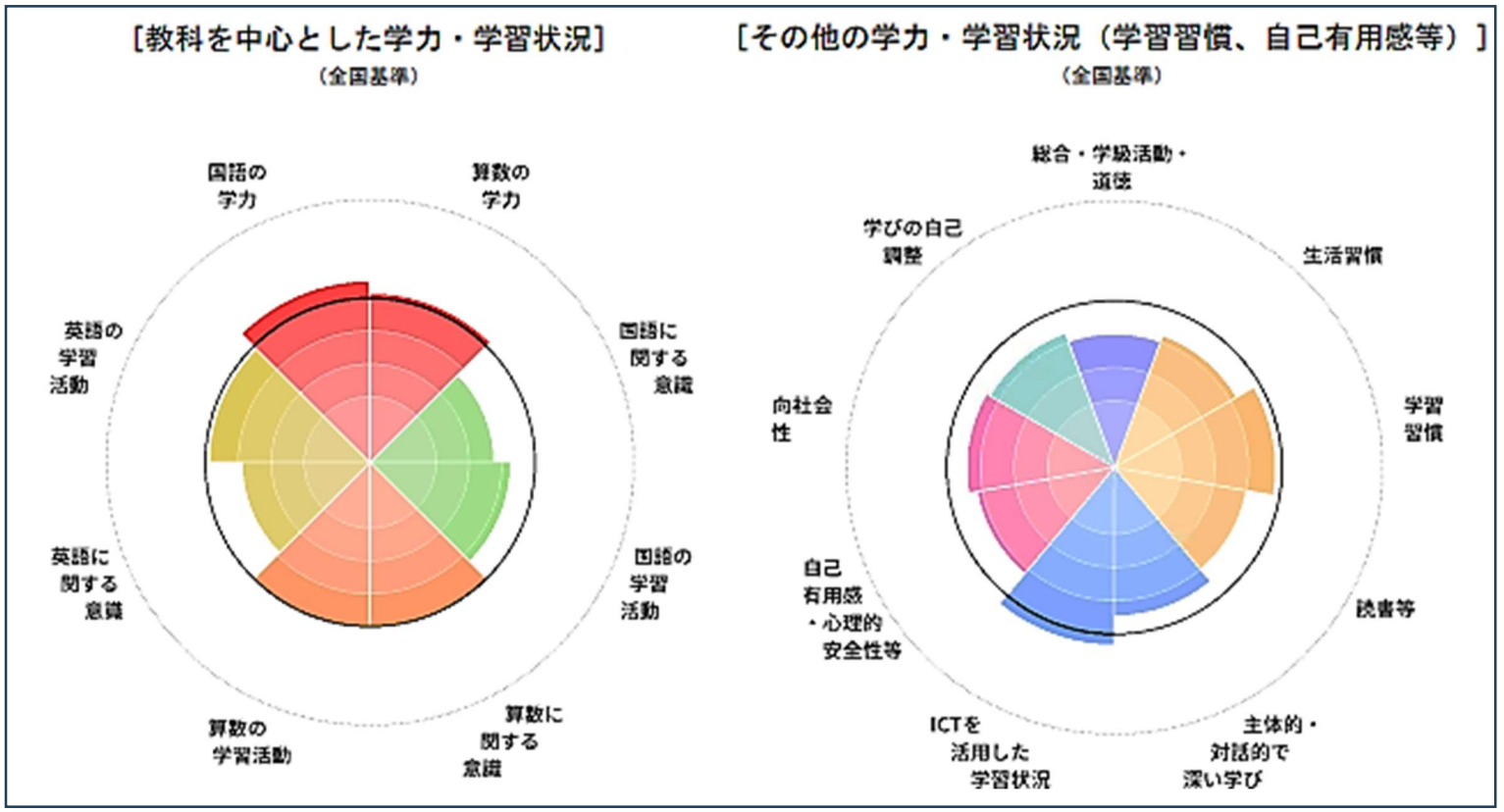
問題番号３(3)（本校の正答率34.1%）

〈問題の概要〉7/3 と 7/4 のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く。

≪今後の取組≫　・数学的な見方、考え方を教師も児童も意識した授業を行う。
・説明をするときには、数、式、言葉（算数用語）を用いて正しく表現する力をつける。

【児童質問紙より】

児童質問紙は、児童の生活や学習の様子をアンケート形式で問う調査です。



≪今後の取組≫　・児童の学びの選択の機会を増やす。
・児童自らが学習計画を立てて家庭学習を実施する取組を行う。
・教師が児童の言動を価値付けたり、互いに認め合える仲間づくりを行ったりする。